



広報資料

水路記念日企画パネル展を開催

～海図で見る小樽港と運河の変遷～

第一管区海上保安本部では、9月12日の水路記念日にあわせて「海図で見る小樽港と運河の変遷」と題したパネル展を小樽市総合博物館にて9月11日（月）から25日（月）まで開催します。

第一管区海上保安本部では、9月12日の水路記念日にあわせた企画展示を例年開催しています。

今年は1923年（大正12年）に小樽運河が完成してから100年となることから、これを記念し小樽運河100年プロジェクトの一環として「海図で見る小樽港と運河の変遷」と題して、大正から昭和の時代の海図を中心としたパネル展示を次のとおり開催します。

1. 展示日時・場所

小樽市総合博物館本館エントランスホール（小樽市手宮1丁目3番6号）

9月11日（月）～25日（月） 午前9時30分～午後5時

（パネル展示会場は無料 火曜定休日）

2. 主な展示内容

- ・海図でみる小樽港と運河の変遷
- ・海図作製にかかわる業務の紹介



【参考】

水路記念日について

明治初期、次々に日本に来航した諸外国の艦船が、日本沿岸の測量を行い、海図を作るなどして日本周辺の地を明らかにしていく事態に、明治政府は国防のみならず海運のために自ら測量して海図を作製することの重要性を認識し、1871年（明治4年）9月12日（旧暦7月28日）に兵部省海軍部に水路局（国の海洋調査機関）を設立し、組織的に我が国独自の海図の作製に取りかかりました。

現在では、海上保安庁がその業務を引き継ぎ、航海安全・海洋権益保全等のための海洋調査のほか、海洋情報の管理・提供も行っています。

海上保安庁では、この水路局の誕生した9月12日を水路記念日としています。



パネル展示の様子（令和4年）